参考資料 3 . 関連用語説明(数字はページ)

【インセンティブ 21、24、27、28】

ある施策を実施するに際して、その施策に積極的にその施策に参加、協力するような動機づけ、あるいは見返りを意味する。通常は、税制上の優遇措置、あるいは都市計画上の法定基準の割増（容積率の割増措置）等が活用されている。

【カーシェアリング 17】

自動車の共同利用をカーシェアリングと呼ぶ。都心内で複数の人と共同で利用する都心レンタカーや郊外の駅で複数の人と共同利用するレンタカーなどがある。

【カープール、バンプール 10、17】

1人乗りによる自動車通勤を削減し、乗車効率を高めることによって自動車交通量を削減する方法で、マイカーの相乗りをカープール、バン等による相乗りをバンプールと呼ぶ。

【サンプリング 27、45】

市場調査において、対象とする集団（母集団）の数が大きい場合には全体を調査することが困難であり、その場合母集団から一定の標本（サンプル）を抽出して、そのサンプルを調査することにより、母集団の状況を把握する。従って、サンプルが母集団を代表していることが重要であり、通常その方法としてランダムに選び出す無作為標本抽出によりサンプルの抽出を行っている。

【トランジットモール 54、55】

トランジットモールとは、商店街の自動車を排除して、歩行者専用空間としたショッピングモールに、路面電車やLRV、バス等路面を走行する公共交通機関を導入した空間を意味する。

【バスベイ 35】

バスの停留所において、交通の流れを阻害しないで停車できるような歩道あるいはその他の部分に湾状に切り込まれた部分をいう。

【パブリックミーティング 27】

地域住民とのコミュニケーションを図るための会合を意味し、基本的には誰でも自由に参加し、意見を述べる事が出来る。どちらかというインフォーマルな会合を意味し、これに対してフォーマルな会合をパブリックインクワイアリー（Public Inquiry）と呼んで両者を区別させる場合もある。

【フォーカスグループ 27】

有識者、地元代表、地元の有力者、利益団体の代表等を意味し、これらの人々とミーティングをしたり、ヒアリングをすることにより、専門的な意見を聴取したり、地元の関心、期待、ニーズを確認したりするために活用される。

【ロードプライシング 10、13】

道路混雑の解消のために、一定のエリアに対する進入・利用に対して賦課金を課す仕組

みを言う。諸外国では、シンガポールにおける導入事例が有名であるが、我が国においても、鎌倉市、東京都等において検討中である。

【ワークショップ 27】

ワークショップとは、もともと「仕事場・作業場」という意味の言葉ですが、まちづくり等のうえではイベント的に「何らかの作業を共同で行い、意見や技術を交換・紹介しあう実習タイプの研究会」を意味する。

【CMP (Congestion Management Program) 17】

交通渋滞の緩和を主たる内容とした地方自治体によって策定される計画。名称、内容は様々であり、土地利用、環境管理、成長管理の概念まで含んだ計画が見られると共に、TDMがその有力な手法として位置づけられている。

【HOVレーン (High Occupancy Vehicle レーン) 17】

一定の路線において公共交通機関や一定以上の乗員がある自動車だけが走行できるレーンを設定し、相乗り、公共交通機関の利用を促進することにより、交通渋滞の緩和を図る。

【PI (Public Involvement) 17、27】

1991年にアメリカにおける複合陸上効率化法（通称ISTEA）の制定後、同法に規定された用語で、交通計画等の策定において住民の参加の下に進めていくことを内容としている。基本的には、関係者に対する関連情報の提供とそれに対して意見を述べる機会を設けることを主たる内容としている。